

平成28年度第1回経営研修会 平成28年10月19日

於：亀田総合病院（鴨川市）

## INDEX

経営研修会	1
会員企業訪問	2
臼井先生連載	3
例会委員会報告	3~4
親睦委員会報告	4
スケジュール/編集後記	4

## 驚きの連続！ さすがの亀田総合病院



10月19日水曜日に第1回経営研修会の現地視察として、鴨川市の亀田総合病院へ行ってきました。

今回、経営研修委員長をお引き受けするにあたって、歯科医師である私に企業経営者の皆様にお役に立てる研修会が開催できるか考えたときに、

思案の末、医療関係の経営者による研修会を企画すればいいのではないかと考えました。

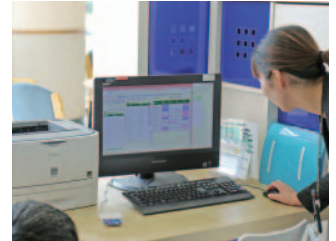
以前に、前研修委員長の桐谷さんの会社から送られてきた医療経営のニュースに、亀田総合病院の経営方針などが紹介されている記事を見かけ、「そうだ！これだ！」と思いついたのです。

### ホスピタリティの極致

亀田総合病院は、浅田次郎の『天国までの百マイル』（朝日新聞社刊、その後講談社文庫、映画&テレビドラマ化）のモデルにもなっており、医療水準も日本トップレベル、経営もトップレベルと常々聞いていましたが、自分の目で見たことがなかったので、自分が聞いてみたい亀田院長の講演、施設見学を研修会として企画しました。

当日は平日にもかかわらず、18名の参加者にお集まりいただき、心配していた天気は秋晴れで一安心しました。現地に到着し、案内されたビルの上階の研修室に通されると、太平洋を180度見渡せる景色に一同圧倒されました。天気が良くて本当に良かった！これだけでも鴨川まで来た甲斐があったと思わせてくれる眺めでした。この景色が眺められたら患者さんは癒されること確実ですね。そして亀田院長の講演が始まりましたが、またしても一同驚き！何に驚いたかというと、院長先生の若々しいルックス！とてもウン歳には見えません。

講演の内容はというと、「そこまでの？」というホス



ピタリティを实践する病院経営はもちろんのこと、地元鴨川の活性化のこと、千葉のこと、東京のこと、そして日本のことまで考えている壮大なビジョンに三たび驚かされました。

その後二班に分かれて施設見学で、患者としては入れないバックヤードを通り、ホテルの一室のようなオーシャンビューの病室、最上階の霊安室やレストランも見せていただけました。ITを駆使したカルテ開示やiPadの様なタッチパネルの端末で15種類から選べる入院食、担当Drのプロフィールも調べられます。施設内のレストラン、美容室は東京都内の有名店と提携しているという徹底ぶりです。ちなみに亀田病院の歴史は約350年、現在の院長で15代目だそうです。

その後、昼食は鴨川名物の新鮮な海鮮料理の「おらが丼」を味わい、帰路の途中にある亀田酒造にて、おいしい日本酒の試飲（といえないくらい飲んだ人も？）をして、好みの日本酒をお土産にしました。



病院といえども民間は経営を考えねばなりません。医療サービスという経営戦略は、顧客を引きつけるということでは他の職業にも参考になったのではないのでしょうか。少しでも参加の皆様のお役に立てたのなら幸いです。

（研修委員長 星野浩之）

## 第23回 (有)サントク

### 「石屋」から「葬儀屋」へ 式場でも販促でも女性スタッフが大活躍!

#### 葬儀縮小化の逆風の中で

有限会社サントクは、2014年7月までは「有限会社石の三徳」という社名だった。「石」が入っていることからわかるように、墓石の販売・施工や墓所の改修・管理を主たる事業として行ってきたのだが、2004年に葬儀部門を立ち上げてから社業の態様が変わり、2014年8月1日をもって現社名に変更した。

平成28年度の月星会副会長を務める木下英之さんは、サントクの専務取締役である。社長はお母様の木下満子氏で、本誌の取材にも同席いただいた。

木下さんが入社した2000年の頃は、旧社名通り「石屋さん」だったが、お二人は墓石事業の将来的限界を感じ、「葬儀屋さん」への転身を図っていったのである。

「石屋にこだわっていたら、もう会社は閉じていたでしょうね」と木下さんは振り返る。

確かに、お墓を建てることより“墓じまい”のほうが話題になっている昨今であるから、葬儀屋への転身は英断だったのであろう。

しかし、葬儀屋とて安閑としていられる状況ではないようだ。

2025年には団塊の世代全員が後期高齢者になり、平均寿命から見て“多死社会”がピークに向かっていくことは明らかだ。ということは、葬儀屋の需要が間違いなく拡大するわけであるが、件数の増加以上に葬儀規模の縮小化が急速に進んでいると、木下さんは言う。

そういえば、最近「家族葬」という言葉をよく目にし、耳にする。木下さん曰く「猫も杓子も家族葬」というくらいに、家族葬が流行りつつあるのだ。

家族葬は密葬とは違う。密葬は身内だけで葬儀を行った後、日を改めて本葬を行うが、家族葬の場合はそれで完結する。要は、老親を亡くす息子・娘世代に「葬儀に費用をかけたくない」という価値観が広まっているのである。

これは葬儀事業者にとっては逆風に違いない。さりとて「家族葬」というキーワードを抜きに営業していくわけにもいかない。サントクの作る販促ツールにも、家族葬のパンフレットはあるし、「一日葬」や「火葬式」(火葬だけのプラン)の案内も作成している。

逆風を逆風と思わず、今日の市場環境の中で積極果敢に営業していこうという考えなのであろう。

家業に入る前は、フリーターをしながらバンドに熱中する生活を送っていたモラトリアムの木下さんだったが、入社以



降は覚悟を決め、社長のお母様と共に様々な取り組みによって家業を盛り上げようとしてきた。

ちなみに、木下さんは「お墓ディレクター」の資格も早々に取得し、葬儀部門の立ち上げ後には「終活カウンセラー」の資格も取っている。

#### 丁寧な説明で「納得」を大切にする

サントクには二つの強みがあると、満子社長が強調する。

一つは、葬儀だけではなくお墓の世話もできること。事業を葬儀主体に転換したとはいえ、墓石や墓所の仕事を切り捨てたわけではない。お墓関連の仕事は創業以来、ずっと続けているのだ。

つまり、サントクは終活の相談から葬儀、墓づくり、さらには墓じまいまでをカバーする会社なのである。

もう一つの強みは、強力な女性スタッフを抱えていることである。

葬儀には、女性スタッフの細やかで優しさのある対応が欠かせない。これはどの葬儀社でも同じ条件であるが、満子社長は、そのクオリティにおいてどこにも負けない優位性があると言うのである。

サントクの女性スタッフは皆、葬儀以外の他の仕事を持っている。葬儀は毎日あるわけではないので、サントクに葬儀が入ったときに駆けつけ、葬儀スタッフとしてプロ性を発揮する仕組みだ。

その女性スタッフにどれだけプロとしての優位性があるかを、木下さんが証明してくれた。

葬儀屋としての自社を説明し始めたときに、「どういう仕事をしているか、これを観てください」と用意してくれた販促ビデオ。この出来栄えが秀逸だった。


葬儀部門10周年企画として作成したもので、木下さんが作ったのかと思えば、そうではなかった。すべて女性スタッフが作ったとか。ビデオだけではなく、パンフレット類も大半は女性スタッフが作ったものだ。なるほど、満子社長が“強み”というだけのプロ性である。

もちろん、木下さん自身にも高いプロ性がある。葬儀は突然やってくるため、経験のない喪主は戸惑うばかりだ。そこで、木下さんはとにかく丁寧な説明を心掛ける。喪主が納得・了承した事項は、目の前で専用の見積書に書き込み、確認のサインをもらう。この用紙のフォーマットは木下さんが作ったものだ。

サントクの評価は、宗派(本門佛立宗唱題寺)の信者を中心に地道に広がっており、葬儀屋として歩みを確かなものにつつまる。

(取材・文/奥平)




 うすい日出男の  
〈こくせいふかん〉の目

## 新たなる第一歩を

月星会が発足して本年、25周年を迎えました。当初、「うすい同友会」として、いま名誉会員の鶴川光一氏や山本康昭氏、同期生の北原俊彦氏高校後輩の阿佐幸雄氏など、数人の友人が選挙に弱い私を心配してグループを立ち上げてくれたのが始まりだった。その後、私の家紋が“月星”であることから“うすい月星会”に改名し、その後、月星会が商工会議所青年会などと共同事業をすることから、“うすい”を取って現在の「月星会」になりました。

私が現職を引退したのが70才の年ですから、本年で7年目になります。本人が引退した後も、自主運営の月星会は、その数が減少しながらも、その中核になっている会員の結束は固く強く、その活動も少しも衰えを見せないのが何とも嬉しい次第です。ただ私が現職を引いたために、国政の内部にいる者でなければ分からない動きの報告が出来なくなってしまったのは、残念でもあり、申し

訳なく思っています。

そんな状況を補ってくれているのが、門山宏哲代議士や臼井正一県議、茂手木直忠市議、小川智之市議の議会報告で、各氏のご協力には感謝をいたしております。そして活力の源は、研修委員会や親睦委員会などの委員会がきめ細かい活動を行っているからです。

先日清水寺貫主による「今年の漢字」が発表され“金”が選ばれました。私は本年半ばに、今年の私の「今年の漢字」に、選択の「選」の文字を選ばせてもらいました。イギリスのEU離脱、アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の逆転当選、我が国でも、参議院議員選挙で自民党はじめ憲法改正勢力が勝利し、戦後初めて改憲発議に必要な3分の2を獲得して、平成29年度が波乱に富んだ年になりそうです。お互い様、健康で頑張ってまいりましょう。

元衆議院議員 臼井日出男



## 例会委員会報告

10月例会 平成28年10月27日(木)

於:鯨割烹みどり

10月の夕食例会は、社会福祉法人稲樹会の理事長をされている武村和夫様をお迎えしての卓話でした。千葉市緑区他で主に認知症の高齢者を対象とした特別養護老人ホームを運営されていらっしゃいます。

よく物忘れが多くなって「認知症になったのではないかと」悩み始める人がいますが、悩んでいるうちは大丈夫とのこと。認知症になると忘れたことを自覚できなくなり、自分の判断は正しい、何でもできると思うようになるのだそうです。そのため、正面から否定すると怒らせてしまうので、認知症の介護には自尊心を傷つけないように介護することが重要なのだとおっしゃっていました。



認知症の方々は自分の年齢を男性は40代、女性は20代だと認識している、徘徊は迷っているという意識がないなど、なかなか向き合いたくない問題ではありますが、軽妙な話しぶりで明るく語ってくださいました。

これといった決定的な予防策がない中で、社会全体が支えあう意識を持つことが、自分がよい介護を受けられることにつながるのではないかと温かい言葉に共感しました。

参加者は、会員28名、講師1名、合わせて29名でした。

11月例会 平成28年11月24日(木)

於:鯨割烹みどり

11月の夕食例会は、漫画家のさとう有作様をお迎えしての卓話でした。今年5月に『人は死んだらどうなるのか あの世のルール』(幻冬舎)を出版され、Amazonでも人気になっているとのこと。

死後の世界について考えるというと暗くなりがちですが、明るいタッチの漫画で、面白おかしく、なるほどと思える内容でした。

亡くなられた方は、身内や親しい方が思い出してあげないと誰も思い出してくれないもので、亡くなられた方に話しかけるようにすると、相手の話が聞こえるようになってくる、交信できるようになるとのことです。

長年師事された、はらたいら氏とのエピソード、特に亡くなられたあとと霊として出てきた話は、ご著書のあとがきにもありますが、仲睦まじい師弟関係が垣間見えるものでした。



「死ぬことは絶対なので、めいっぱい生きることが大事」というメッセージで締めくくられていました。

参加者は、会員24名、講師1名、合わせて25名でした。



## 第3回川柳特集のお知らせ

間もなく新年。2017年は皆さんにとってどんな年になるのでしょうか。皆さんの決意はいかに？

来年もやります、新春川柳特集。どしどしご応募を！

お題：年越し、初詣、新年の決意

締切：平成29年1月末日

優秀作品発表：2月20号(選者は臼井先生)

## 親睦委員会報告

親睦ボウリング大会 平成28年11月12日(土) 於:アサヒボウリングセンター

月星会の親睦ボウリング大会に初めて参加しました。一緒に参加を予定していた娘が風邪をひいてしまい、急きょキャンセルとなってしまったのは残念。しかし、5名の小さなお子さんが参加して和気あいあいとした雰囲気の中、ゲームは盛り上がりました。

久しぶりのボウリングで感覚が取り戻せず……1ゲーム目は微妙な点数に。ところが2ゲーム目では何かが取り憑いたのか、ストライク連発！第3位という嬉しい結果になりました。

ゲーム後の表彰式・懇親会は家庭の事情でやむを得ず欠



席させていただきましたが、ボウリング同様、皆さま楽しいひと時を過ごされたとのことです。

今回は、会員16名、ビジター2名、お子さま5名の計23名の方々にご参加いただきました。また、多数のご協賛もいただいたとのこと、ありがとうございました。お名前のみご報告いたします(敬称略、順不同)。

協賛 [林威樹、阿佐幸雄、土屋文武、尾形文貴、穴倉龍子、産方恒好、吉田光一、川名利夫、片野洋子、森本哲郎、内藤太、鷲見隆仁、星野浩之、木村光慶、岩田被服(株)]

(森本哲郎記)

## 会員異動 新入会



ナカジマ ミカ  
中島美香

昭和40年7月14日生

血液型 O型 紹介者 穴倉龍子  
事業所名 株式会社ナカジマ(不動産賃貸業)  
役職 代表取締役  
所在地 千葉市中央区登戸5-19-11-308  
TEL・FAX. 043-241-4793  
携帯電話 090-6152-4422

趣味：ピアノ・水泳・テニス・読書 家族：夫、息子、娘

## 退会

西山 和夫氏

逝去の為 退会

## 異動

土屋 文武氏 中央資材(株) 事務所移転  
新事務所 住所 〒263-0023 千葉市稲毛区緑町1-29-15  
電話 043-301-3141 FAX 043-301-3142

## 12月～2月のスケジュール

12/19(月)	夕食例会・望年会 18:00開会 鮭割烹みどり 参加費 会員4,000円 ビジター5,000円(飲み放題)
1/11(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
1/28(土)	創立25周年記念講演・式典・祝賀会 会場 ホテルグリーンタワー幕張 第1部 記念講演会 17:00開会 18:00閉会 講師 (株)ASPE 代表取締役 島田慎二氏 テーマ 「千葉ジェッツの再建と経営革新」 第2部 記念式典・祝賀会 開会18:30 閉会21:00
2/1(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
2/23(木)	夕食例会 18:30開会 鮭割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター4,000円

## 編集後記

◆今年の年末はいつもより慌ただしく、少々目が回っています。会報関係の手配でも行き届かず、ご迷惑をおかけした方には改めてお詫び申し上げます。そんな中ですが、目下の悩みの一つは我が家のサンタ役として何をを用意するか？子供に聞いてもなんとなく秘密にされてしまい、的を射た答えを引き出せずにあります。良い知恵があれば教えてください。(森本哲郎)